

講演企画委員会からのお知らせ

1. 1997年度春季大会における大会改革の試行について

講演企画委員会では、長らく、学会講演のあり方について議論してきました(2月号136~137ページ参照)。その結果、実質的な議論を深めるため専門分科会とポスター・セッションを組み合わせる方式について検討を進め、これを早期に試行する方向で理事会の承認を頂きました。

そこで、1997年度春季大会(1997年5月21~23日、筑波大学)において新しい大会講演のあり方を試行的に実施したいと考えています。その趣旨は、(1)各会員の発表する権利を保障しつつ、(2)学会として学問の最先端の議論を十分に深めることができるようにしようとするものです。

新方式の概要は以下のようになります。

(1)従来の第1種・第2種講演に代え、一般の発表はポスター(1件1分以内の概要紹介つき)で行います。従来の口頭発表は4会場に分かれていて、自分の専門と関係の薄い話を聞きにくかったので、この点を改めるために、(申込総数によりますが)ポスターの概要紹介はできれば1会場にまとめて行いたいと考えます。

(2)学問のホットな話題を深めるために、各5時間程度の専門分科会(特定のテーマに基づくシンポジウム形式のセッション)の枠を3会場×2回、計6個用意します。講演は公募しますが、その採否はコンピーナーの判断に任せられます(不採用の場合はポスターになる)。また、コンピーナーのアレンジによる招待講演も可能です。

分科会のテーマとコンピーナーは公募としますが、気象学全体のバランスを考え、講演企画委員会がテーマ・コンピーナーを調整し、理事会で承認するものとします。

時間割は、ほぼ次のように考えています。分科会は3会場に分かれて行う予定です。第2日午後の「全体行事」は、従来とほぼ同じ内容(総会・各賞記念講演・シンポジウム)です。なお、シンポジウムの時間に特別招待講演が予定されています。

	第1日	第2日	第3日
09:30~11:30	ポスター I	ポスター II	ポスター III
13:00~18:00	分科会 I	全体行事	分科会 II

今後のスケジュールは以下のように予定しています。

10月17日:分科会のコンピーナーの応募締切(詳細は後述)

11月初め:分科会のテーマとコンピーナーの確定

12月末:大会告示(「天気」12月号に掲載)

2月中旬ごろ:分科会の講演申込締切

プログラムの作成開始

3月前半:分科会のプログラム確定

一般講演(ポスター)の申込締切

補足

(1)分科会における1講演者当たりの発表件数は制限せず、すべてコンピーナーの判断に委ねる予定です。ポスターについては、「1講演者2件以内」とする予定です。

(2)予稿集は、ポスター・分科会ともに従来通り1件1ページとする予定です。

(3)秋季大会については、1997年以降も当分の間は従来の方式(第1種・第2種講演+ポスター)で実施する予定です。1998年以降の春季大会をどうするかについては、1997年度春季大会における試行の結果などを見てから判断します。

2. 1997年度春季大会における分科会のコンピーナー募集

上記の実施方式に基づき、1997年度春季大会における分科会のテーマとコンピーナーを募集します。

コンピーナーには、分科会の企画から実施まで全般にわたる世話を担当して頂きます。主な役割としては、

- ・テーマの立案、応募(下記参照)
- ・講演申込の受付、プログラムの作成(招待講演の設定、講演持ち時間の配分、座長の手配等を含む)
- ・大会当日の分科会の運営

があります。これらを円滑に進めるため、コンピーナーは分科会ごとに複数の方をお願いします。またプログラム編成期(1997年2~3月)には、講演企画委員会と常時連絡がとれるようにして下さい。

応募する場合には、以下の点を明記して郵便で申し込んで下さい。

1. 分科会のテーマ

2. 分科会の趣旨説明 (200~400字程度)
3. コンピーナーの氏名・所属および代表者1~2名の連絡先 (電話・Fax および e-mail)
4. 分科会に講演を申し込む場合の郵送先
以上のうち、下線部は「天気」12月号に掲載されま
す (要望があれば電話, Fax, e-mail も掲載します)。

申込先：〒305 茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所予報研究部
講演企画委員会 (小泉 耕)

申込期限：1996年10月17日 (木) 必着

補 足

(1) テーマは「メソ」「気候」のような漠然としたものではなく、実質的な議論を深めるといふ分科会の目的に沿うよう絞り込んで下さい。参考までに、最近の「スペシャル・セッション」のテーマを後に掲げておきます。

(2) 招待講演も歓迎します。この場合、必ずしも original paper である必要はありません。なお招待講演者がすでに決まっている場合にはこれを「趣旨説明」に書くなど、申込者への情報提供を図って下さい。

(3) 分科会の割り当て時間は前記の通りでなくてもよく、12:30~18:00の範囲内で柔軟に設定できます。講演持ち時間もコンピーナーの判断で自由に設定して頂いて結構ですが、一応1件あたり15~30分を目安とします。

(4) 分科会会場 (3会場) の収容人数はそれぞれ1000人, 357人, 160人です。

最近のスペシャル・セッションのテーマ

1996春：気象予報技術

1995春：大陸スケールのエネルギー・水循環と陸面
過程

1994秋：西日本の気象災害

1994春：極域の物質循環と気候システム

1993秋：TOGA/COARE

1992秋：航空機による大気観測

1992秋：雪

1991秋：グローバル水循環とアジア

1990春：いろいろな QBO

1989秋：いろいろな視点からみた梅雨